



HILT 社会の創設

介護医療関連会社社長 春山 満

2013年3月4日
NHKラジオ
明日への言葉

日本、豊かだといいます。みんな、いい服着て、いいものを食べて、家にはエアコンがあって、車に乗って、戦後あこがれた豊かな日本になりました。

ところがいま、多くの人々が、親が死んでホッとする国なんです。

親が死んで、ホッとする国の、どこが豊かなんですか？

日本の「老い」ってこれでいいのですか。

ぼくはいつか、日本人の老い、ひいては日本人の人生観について、大きな疑問を持つようになりました。

欧米諸国そしてオーストラリアの高齢化先進国は、それぞれに迷いながらも、強い意志をもって老いに対する施策を行っています。その施策、高齢者に対する介護や医療システムには、それぞれの国が持つ文化が色濃く反映されています。その国が持つ死生観や人生観がいろいろなカタチで表出しているのです。

ヨーロッパに限らず、アメリカでもオーストラリアでも、介護というゾーンに入ると、だいたい医療は切断します。風邪薬や頭痛薬は出しても、日本のようにただ生かせることを目的とした高齢者医療というものはやらないのです。その代わりに、いかに生きるかということをつまみお年寄りの心を、最期までしっかりとプロとして支えていきます。

ぼくはここに、非常に厳しい命の見切りと選択、それを純然と捉える国民の潔さ、その現実を踏まえて高齢者住宅をきちんと運営していくマネジメントのすごさを見た思いがしました。

このような海外の高齢者事情の見聞をもとに、春山氏は沖縄名護を舞台に一大福祉事業を打ち上げる。それが、日本初のリタイアメントコミュニティ「カヌチャ ヒルト コミュニティ」である。

壮大な自然に囲まれた、豊かなりゾートと合体した、壮年期からのコミュニティです。でもそれは、単なるリゾートではありません。壮年期からの「第三の人生」を輝かせ、充実して過ごすための、まったく新しいタイプのコミュニティです。

それはおそらく、これから日本全土に広がっていくであろう新しいムーブメント、医療と介護の新時代を告げるコミュニティのモデルとなるはずです。……………

……超高齢化する日本で、これから一番重要になるのは、「誰もが共に調和して暮らすこと」だと思うからです。

誰が介護しても、誰に介護されても、泣かない日本をつくる。バリアフリーを超えて、共に調和して暮らすヒルト(HILT=Harmony In Living Together)。これからは、ぼくらは皆そのヒルトという感覚を持っていかなければならないと思います。

HILT(Harmony In Living Together)は、心の“やすらぎ”、介護者の“機能性”、暮らし合う“調和”という3つのキーワードで構成された、画期的な施設対応型システムファニチュアです。

これからの老人福祉施設や老人保健施設、また療養型病床群などにとって「長期化し重度化する入所者の実状」「個室化傾向に相反する介護体制の未解決」「運営し続ける施設の長期展望に則した変化への対応」という3つの問題が解決されないと、調和を持った業務省力化は実現しません。

これらを長期にわたり研究し、運営し続ける施設の個々のニーズに合わせた最適な療養室空間を演出するために開発された“施設対応型システムファニチュア「ヒルト」”で、無駄のない設備計画とトータルコーディネートを実現します。

療養生活を送る要介護者にとって、最も大切なのは心のやすらぎです。家族の思い出、人生の節目、友のこと…。大切な品物、自分だけの身だしなみ、そして心の張り…。このような個々のプライバシーを“思い出キャビネット”に収納してください。暮らし合う療養生活で、最も大切なのは空間のやすらぎです。ベッドサイドから使えて、同時に通路側からも使える“からくりチェスト”、使って快適、納めて便利な“テレビキャビネット”“ワードローブ”など…「ヒルト」が初めて表現する空間のやすらぎをご活用ください。

車椅子の人、手先の不自由な人、四肢の虚弱した人といった要介護者の立場から求められている機能を実現。また、収納性を第一に、日々の業務のなかでの効率性と省力化を重視した介護者の立場から求められている機能をデザインしました。

ヒルトは、全てのキャビネットが原則として40cmモジュールで構成された、日本で初めての施設対応型システムファニチュアです。

1997年 春山 満開発商品 イージーケア・テーブル、バリアフリー・テーブル、ポスチャーサポートチェア、施設対応型システムファニチュアHILT(ヒルト)が通産省(現経済産業省)の提唱によるメロウソサエティフォーラムより、メロウグランプリ 商品・サービス分野 生活設備・環境整備部門 優秀賞受賞。